

# 国 語

## 問 題 用 紙

[ 試験時間：50分、配点：100点 ]

(受験上の注意)

- ◎ 開始の合図があるまで開けてはいけません。
- ◎ この問題用紙は全部で14ページあり、解答用紙は問題用紙の中に入っています。
- ◎ 答えはすべて解答用紙にはっきり記入すること。
- ◎ 解答用紙には、机の番号と受験番号と名前を忘れずに記入しましょう。
- ◎ 声を出して読むではいけません。
- ◎ 問いのなかで字数に指定のあるときは、特に指示がない限り、句読点などもその字数にふくめます。
- ◎ 終わりの合図があったら解答用紙だけを提出してください。問題用紙は持ち帰ること。

帝 京 中 学 校

第1回 午前

国語 問題用紙

【1】次のあらすじと文章を読んで、後の問いに答えなさい。

森下ナオミは中学二年生。学校では目立たない存在だった。ある日、古本屋に寄った際、バツクを盗<sup>ぬす</sup>まれてしまう。その解決に協力してくれたのが、小学校の同級生の柴咲アサミ<sup>しばさき</sup>だった。現在、学年の<sup>※</sup>トラブルメーカーといわれるアサミとの関係を心配してくれる野々村<sup>ののむら</sup>さんは、アサミが小学校五年生の時、担当教師を退職に追い込んだといううわさ話をしてくれた。しかし、その内容はでたらめで、実はナオミもこの騒動<sup>さわどう</sup>には深くかかわっていた。これはナオミが当時を思い返している場面である。

※トラブルメーカー…もめごとをよく起こす人。

思い出すのもおっくうだから、忘れたふりをしてたけど。あくまでもふりはふり。決して忘れたわけじゃない。第二小学校五年二組のクラスで起こった、ある騒動。野々村さんがいつていた「事件」というのは、このことだ。ただし、彼女の聞いた噂話<sup>うわさはなし</sup>はジジツ<sup>a</sup>とはだいぶ食いちがう。まず第一に、事件はアサミ一人が起こしたものじゃない。あたしをふくめた五年二組の女子全員がかかわっていた。事件のショックで先生が辞めたというのも、うそっぱち。騒動があった翌年の春に結婚退<sup>けっこん</sup>職<sup>あ</sup>しただけだ。

ことの起こりは、体育館でのちよつとしたトラブルだった。秋の球技大会の練習用に貸し出され

ていたバレーコートで、放課後、二組と三組の女子チームが勝ち合った。貸し出しは予約制だったから、多分<sup>※</sup>ダブルブッキング。でも受け付けをした先生は出張中でいなかった。

「どうする？ 半面ずつ使う？」

「半面ずつだときゅうくつでちゃんとした練習なんかできっこないよ」

「そうだよねえ」

両チームが話し合っているところへ通りかかった音楽教師。それがたまたま三組の担任だったというわけで。

「そんなつまらないことでもめてるの？ いいじゃない。今日はうちのクラスが少し早めに来たんでしょ？ だったら二組がゆずりましょうよ。校庭だったらすいてるんだし、問題ないと思うけど」

「いったい、どういう考えでそういったのかと、いまでも思う。そのジテン<sup>b</sup>で球技大会の日は二日後に迫<sup>せま</sup>っていた。バレーのレシーブ練習は室内のほうがやりやすい。校庭でやる練習だけだと本番に向けて不安が残る。」

当然ながら、二組の女子は口をとがらせて抗議<sup>こうぎ</sup>した。たかが球技大会とはいえ、勝負ごとに燃える女子もいる。<sup>①</sup>予約のダブルブッキングなら、どちらのケンリも有効なはず。せめてジャンケンかくじ引きで決着をつけてほしかった。しかも自分が受け持っているクラスの肩<sup>かた</sup>を持つなんて、若い女の先生とはいえ、<sup>②</sup>ずいぶんヒキがきつすぎる。でも、先生はうるさそうに A をしかめてみせただけ。三組の女子はコートに入って、さっさと練習しはじめちゃうし。

二組の女子は、しかたなくコートをゆずって校庭に出た。

「なに、あの先生。不公平。あんなやつだとは思わなかった」

※ダブルブッキング：約束などを二重にしてしまうこと。

「つまらないことじゃないってば。大会のためにスケジュール組んで必死で練習してんのに」  
「負けたら、あいつのせいだよね」

そんな会話が練習中に飛びかったのも無理はない。この年ごろの女子が怒ると、すさまじいパワーを発揮する。じつさい、球技大会当日、二組の女子はAチームBチームともに初戦敗退。優勝どころじゃなくなった。

最初に<sup>③</sup>それをいい出したのは、はたしてだれだったんだろう。たしかにアサミは当時から派手で目立つ子だったけど、みんなを扇動<sup>せんどう</sup>するようなタイプじゃなかった気がする。五年二組にはアサミのほかにも元気な女子が何人かいた。アサミがいてもいなくても、騒<sup>さわ</sup>ぎは起きていたはずだ。

「一二組の女子のみなさんへ」

あしたの五時間め(音楽の時間)にボイコットをやりませう。

みんな、ぜったい協力してね！ うらざり者は<sup>④</sup>村八分

ボイコット実行委員会より」

球技大会のあと、極秘のメモが女子全員に回された。試合に負けたくやしきもあって、女子はまじギレ寸前だった。この温厚なあたしでさえもカツカしていたほどだから、女子二十一名のだけれども反対意見は出なかった。

で、あたしたちはやったのだ。授業の集団ボイコット。まず「起立、礼」の号令を無視することからはじまって、机の上に出すべきものをひとつも出さずに下を向く。課題曲のピアノ伴奏<sup>ばんそう</sup>が流れてきても歌わない。リコーダーも手に取らない。なにがなんでも動かない。はたから見ると、すこぶる異様な光景だったにちがいない。男子は口をあんぐりあけて、女子の様子をながめていた。

「どうしちゃったの、あなたたち。いわれたとおりにやりなさい」

授業の前半、先生は女子にくり返し注意した。それでもらちがあかないとなると、今度はおたおたしはじめた。⑤ 体育館でのトラブルのことは、さっぱり覚えてなかったみたい。そんな程度の認識だからボイコットなんかされるんだ。

ざまあみさらせ。と意気軒高※いぎけんこうでいられたのはそこまです。授業の後半、先生は音楽室を飛び出すと、五年二組の担任と学年主任をつれてもどった。そこで一気に形勢逆転。向こうはおとなでこっちは子ども。向こうは教師でこっちは生徒。当然、こっちのタチバdが弱い。だいたい、ツメが甘あまかったんだ。いきおいに乗ってやったはいいけど、騒ぎを起こしたあとのことなんて、だれも考えてなかったし。

「理由はどうあれ、やっていいことといけなことがあるだろう」

学年主任にそういわれたら、なんとなくそんな気もしたし。

危機を察した女子の一部は、うつむいたまま泣き出した。泣けばいいってもんじやないけど、そういう子って、けっこう多い。団結力が弱まれば、あとは向こうの思うつぼ。おとな三人がよつたかって説教するは。なだめるは。あげくのはてに教室内の秩序ちつじょを乱した罰ばつとして、二百メートルトラックを十周しろって話になって。授業が終わると帰りの会をとつとすませて帰っていった。

なぜあんなことをしちやっただか、自分でもよくわからない。肩を落とした仲間にまじって校庭へ出ていった時。あたしはとつぜん、みんなといっしょに罰を受ける気がなくなった。みんなといっしょにやってはいけないことをしたのはじじつだけれど。だからといって、一方的に責められたんじやかなわぬ。十一歳さいの小学生にとって、あれが精一杯せいいつぱい。体育館での一件でどれほど不快な思いをしたか、理路整然りろせいぜんと訴うえることができればとつくにそうしてた。

あたしは校舎に逆もどりして帰りたくをはじめた。納得できないことをするのは死んでもい

※意気軒高：意気込みが盛んで、元氣いっばいな様子。

やだ、と思ったからだ。いくら無口でおとなしくても感情がないわけじゃない。プライドもあるし、意地もある。ゆずりたくない一線がある。

「あれ、もう走り終わったの？」

昇降口に向かう途中とちゆうちゆうで、だれかに声をかけられたけど、聞こえなかったふりをした。あたしは校舎を飛び出すと、息せき切って家に帰った。耳たぶが熱くなっていたのは興奮してたせいだと思う。でも、せっかくの胸の高鳴りも、そんなに長くはつづかなかった。その日のうちに担任が家に電話をかけてきて、その日のできごとがすべてバレた。親にも、もちろんユウタにも。

個人的に大変なことになったのは、そのあとだった。つぎの日の放課後、あたしはさっそく職員室に呼び出され、担任にきつくシメられたあとで反省文を書かされた。そのつぎの日には、おかあさんが学年主任に呼び出され、家庭環境かんきやうやしつけに関する面談を受けたらしかった。あたしはすっかりちぢみ上がって、いいわけひとつできなくなった。まちがったことをやったつもりは、これっぽっちもなかったはずなのに。

「なにやってんのよ。ほんとに、もう。はずかしいったらありやしない。あんたみたいなことしたの、クラスでたったの一人でしょ？ 先生がたもあきれかえって言葉もないってふうだったわよ。

『よりにもよって、あのおとなしい森下さんがねえ』だって」

面談を終えて帰ってくるなり、おかあさんはぶつぶついった。

「なに。おねえちゃん、悪いことして怒られてんの？ バカじゃん。ぎゃははっ」

なにもわかっちゃいけないくせして、ユウタはやけにはしゃいでいった。

がつくりきすぎで、この時ばかりは涙なみだのひとつも出なかった。がらに合わないことをして、いらぬ恥はじをかいてりや世話はない。<sup>⑥</sup>やんなきゃよかった、あんなこと。あたしはめっちゃめっちゃ後悔こうかいをし

た。ドウジ<sup>e</sup>に、自分の実力のほどをいやというほど思い知らされた。家庭内での人気度だとか、教室内での立ち位置だとか、それまで特に意識して考えたことはなかったけれど。だれ一人として、あたしのことを慰めてくれやしなかった。あたしの意見に耳をかたむけてくれる人さえいなかった。見渡す限り味方なし。頼りにできる友もなし。愚痴<sup>ぐち</sup>をこぼせる友もなし。そんな自分に希望なし。その晩、部屋の窓からながめた夜空はどんよりにごっていた。

〔サンネンイチゴ〕笹生陽子・角川文庫

問1 〰〰〰 a 〰 e のカタカナを漢字に直しなさい。

「 a ジジツ

b ジテン

c ケンリ

d タチバ

e ドウジ

問2 本文中には次の一文がぬけています。どこに入れるのが最も適当ですか。文が入る部分の直前の5字を本文中からぬき出して答えなさい。

もちろん男子は関係ないから、だまって騒ぎを見てただけ。

問3  A にあてはまる言葉として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

「ア 肩      イ 腹      ウ 足      エ 顔      オ 頭」

問4 —— ①「予約のダブルブッキング」とありますが、この状況をじょうきょう知った時の音楽教師の気持ちを説明した次の文章の  にあてはまる言葉を本文中から7字で探し、ぬき出して答えなさい。

球技大会はそれほど重要な行事ではない。練習ができれば、それでいいのではないか。 で言い合いをしないで、今日は早く来た二組が体育館を使い、次は三組というようにゆずりあって使えばいいだろう。

問5 —— ②「ずいぶんヒイキがきつすぎる」とありますが、この内容を言いかえた言葉を本文中から漢字3字で探し、ぬき出して答えなさい。

問6 —— ③「それ」とありますが、これは何を指していますか。本文中から10字の表現を探し、ぬき出して答えなさい。

問7 ——— ④「村八分」とありますが、この言葉のもともとの意味として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 村の多くの人々の意見をまとめること。
- イ 村のおきてをやぶった者と、すべての交際を絶つこと。
- ウ 村の決まりを守れなかったとき、多くの仲間に許しを請うこと。
- エ 村の人々の大多数の意見に対して、異なる考えを主張すること。

問8 ——— ⑤「体育館でのトラブル」とありますが、その内容が具体的に書かれた一文を本文中から探し、はじめの5字をぬき出して答えなさい。

問9 ——— ⑥「やんなきゃよかった、あんなこと」とありますが、「あたし」がトラックを十周走らないで帰ってしまったのは、どういう気持ちからですか。わかりやすく説明しなさい。

【2】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

くちばしは、つばさと並ぶ「鳥」の大きな特徴の1つです。鳥や恐竜の本のなかには、鳥は体を軽くするために重い歯をなくし、口をくちばしに替えたと説明されているものもありますが、鳥が実際に捨てたのは歯というより、「噛む」「咀嚼する」という行為でした。

噛むためには歯が必要で、さらには歯の土台である、骨でできた顎を動かす筋肉が必要です。筋肉って、実はとても重いのです。そして、強い力を発揮するには、たくさん筋肉が必要になります。つまり鳥は、噛むことをやめたことで、一気に頭部の重量を減らすことができたと考えてください。それによって、頭が重いというバランスの悪さが解消されて、さらにうまく飛行できるようなったと考えられます。

ただ、これにはマイナス面もありました。噛む筋肉は食事用途だけでなく、顔に表情をつくる「表情筋」という役割も担っていたからです。鳥の祖先は、噛むことをやめたおかげで、くちばしを開けたり閉じたり、左右に動かしたりする働きをもった本来に最低限のものを除いて、頭部から筋肉をなくしてしまいました。その結果、鳥の顔は複雑な表情がつけられなくなりました。

人間は原始の時代から、声を聞き、相手の表情を見て、その考えや感情を読み取ってきました。身の周りの動物に対しても、同じようなことをしてきました。表情や雰囲気から「1」を読む」というのはその頃に始まったと考えられています。

人間と相互に影響を及ぼしあいながら進化してきたイヌは、笑顔に似た表情や、困惑した表情など、さまざまな表情をつくることができます。その顔に人間ほどの筋肉はありませんが、それでもかなり表情豊かに見えます。

イヌを見るのと同じ目で鳥を見た場合、鳥はきわめて 2 表情です。なんの知識もないままに鳥を見てしまうと、昆虫こんちゆうなどのようになんの感情もない生き物に見えてしまいます。そんなこともあつて、専門家をふくむ世の東西の人々が、「鳥に心などない」、「鳥は頭が悪い」と思い込んでしまふことになったのでしょうか。

表情で伝えられなくなった気持ちや感情を伝える手段を、鳥は新たに作りださなければなりませんでした。その新たな手段こそ、進化した鳴き声「さえずり」でした。

オスは子孫を残すために、メスに自分を精いっぱいアピールしなくてはなりません。さえずりは、そうしたことに、とても有効でした。インコやオウムの一部で、こうして得た「声」を「話すこと」に活用しているのは、よく知られたとおりです。

鳥が口をくちばしに変えたのは、軽量化目的だけではありませんでした。ものを食べる器官であると同時に、前足をつばしに変えてしまったことで失った、手のかわりでもありません。鳥はそのくちばしに、つまみ上げたり、持ち運んだりする機能をもたせるようになります。また、インコなどでは、くちばしで叩たたいて音を出してみるなど、まるでドラムのスティックのような、楽器の一部のような使い方をします。

鳥のくちばしは、先端せんたんが尖とがっていて、その先端を使うと、極めて精巧せいこうな作業をすることができます。手や指のかわりをするだけでなく、精密なピンセットの機能さえもたせることに成功したのです。その繊細せんさいなくちばしで、鳥たちは日々、羽づくろいに精をだします。

そんなくちばしの機能はまだあります。舌とあわせて、くわえたものの質感や材質、重さ、味や温度まで知ることができます。<sup>④</sup> まさに「くちばし万能」です。

くちばしは目や脳のそばにあり、食べたり作業したりするにあたっては、味覚あじかくや嗅覚きゆうかく、固さや舌触したざわ

りなどの触覚しゅつかくの情報が、目からの視覚情報とともに、脳へと直送されます。それが、脳に対して発達を⑤うながす強い刺激しげきになったことはまちがいありません。

あらためてまとめます。くちばしは、恐竜が鳥へと進化する際の軽量化にあたって捨て去った、顔の筋肉と歯とあごの骨に代わるものとして生み出されたものでした。その際、鳥の祖先は、感情や気持ちを伝えられる「表情」をつくることもできなくなってしまったため、それにかわるものを生み出す必要がありました。おそらく祖先の恐竜時代から行われていたと推察される「全身の羽毛うもを使った※ディスプレイ」のパフォーマンスを向上させたのもその一環いっかんです。祖先の恐竜の数百分の1の体重となり、身軽になった鳥は、樹上で軽くステップも踏ふめるようになって、さらにパフォーマンスの幅はばを広げました。

「声」は恐竜時代から発することができたはずですが、鳥はさらにもう一段進化させて、美しく自在な「歌」、すなわち「さえざり」を身につけました。※オウム目うむくの鳥では、それが「話す」というかたちにもなりました。

なお、鳥がさえざりたり話したりできるようになったことについては、章の最後で紹介しょうかいしている、現在は鳥のみに見られる「気囊きのう」と呼ばれる呼吸の補助システムの存在を無視することはできません。気囊システムを自分のものにしたおかげで、鳥は息を止めたり、速めたりという呼吸のコントロールができるようになり、それによって「さえざり」や「おしゃべり」が可能になったからです。さえざる鳥もインコ類も自在に呼吸をコントロールできますが、陸上の哺乳類ほにゅうるいでそれができるのは人間だけで、そのことが人間が話せるようになった大きな要因と考えられています。⑥この点でも、インコと人間はつながっていたのです。

『インコの謎』細川博昭・誠文堂新光社

※ディスプレイ：動物が自分の存在を目立たせるような姿勢や行動をとること。

※オウム目：オウムやインコの仲間のこと。

問 1  1 にあてはまる言葉として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

「ア 宇宙      イ 地球      ウ 呼吸      エ 空気」

問 2  2 にあてはまる漢字1字を答えなさい。

問 3  ①「鳥が実際に捨てたのは歯というより、『囓む』咀嚼する」という行為でした」とありますが、鳥が囓

むのをやめたためにできるようになったことを説明した次の文の  I・II にあてはまる表現を本文中から

I は11字、II は5字で探し、それぞれぬき出して答えなさい。

鳥は囓むことをやめたことで、 I ができ、さらに  II できるようになった。

問 4  ②「鳥の顔は複雑な表情がつけられなくなってしまったのです」とありますが、鳥はどのような方法で気

持ちや感情を伝えるのですか。それが書かれた一文を本文中から探し、はじめの5字をぬき出して答えなさい。

問5

——③「同じようなこと」とありますが、これはどのようなことですか。最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 原始の時代から鳥は、周りの様子や雰囲気から考えや気持ちを想像してきたということ。
- イ 恐竜から鳥に進化した時代から、人間は鳥や動物の様子に気を配ってきたということ。
- ウ 人間と深いつながりのあるイヌは、考えや気持ちを表情豊かに表現してきたということ。
- エ かなり前の時代から、人間は相手の声や表情からその思考や気持ちを読み取ってきたということ。

問6

——④「まさに『くちばし万能』です」とありますが、鳥はくちばしにどのような機能を持たせたのですか。本文中にあげられている機能として適当でないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 舌とあわせて、くわえたものの質感や材質、重さ、味などを知ることができる機能。
- イ 手のかわりにもものをつまみ上げたり、持ち運んだりすることができる機能。
- ウ 先端が尖っていることを利用して、敵を攻撃こうげきすることができる機能。
- エ 手や指のかわりをするだけでなく、精密なピンセットのようにつまむことができる機能。

問7 ——— ⑤「うながす」とありますが、この言葉の意味として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 物事の進行をはやくさせること。
- イ 物事をすばやくすませること。
- ウ 物事から多く学ぶこと。
- エ 物事のよい点をみつけること。

問8 ——— ⑥「この点でも、インコと人間はつながっていたのです」とありますが、筆者はインコと人間がどのような点でつながっていると考えていますか。本文中の言葉を使ってわかりやすく説明しなさい。

問9 次のの中から本文の内容と一致するものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 歯を動かす筋肉はとても重いので、それを使って表情をつくることはなかなかむずかしいことである。
- イ 鳥のオスは子孫を残さなければならぬので、目を使って精いっぱいメスにアピールをする。
- ウ 重い歯がなくなり身軽になった鳥は樹上で軽いステップを踏み、さらにパフォーマンスの幅を広げた。
- エ 自在に呼吸をコントロールできる鳥は、他の陸上の哺乳類と同じような体のしくみになっている。

第1回 午前 国語 解答用紙

机の番号

受験番号

名前

【1】

問1	a 事実	b 時点	c 権利	d 立場	e 同時
----	------	------	------	------	------

②×5

問2 になつて。 ⑤ 問3 エ ⑤

問4 つまらないこと ⑤ 問5 不公平 ⑤

問6 授業の集団ボイコット ⑤ 問7 イ ⑤

問8 秋の球技大 ⑤

問9

いけないことをしたのは確かだが、一方的に悪者にされることは納得できず、ゆずれない。だから走れないという気持ち。

⑤

【2】

問1	エ ⑤	問2	無 ⑤
----	-----	----	-----

問3	II	I
	うまく飛行	頭部の重量を減らすこと

⑤

問4 その新たな ⑤

問5 エ ⑤ 問6 ウ ⑤ 問7 ア ⑤

問8

鳥と人間は息を止めたり、速めたりという呼吸のコントロールができるという点。

⑤

問9 ウ ⑤